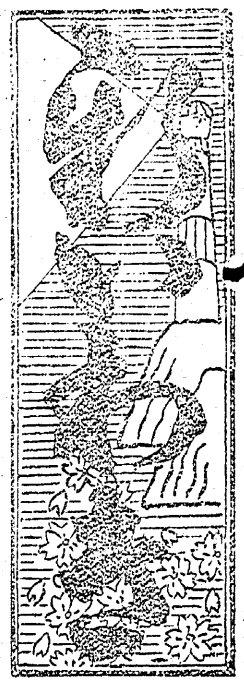
（昭和五年三月廿一日 第三種郵便物認可）　【日刊】　昭和九年七月二十二日　新いわき　【日曜日】第二千二百三十五號　（一）

七月二十一日・夕刊



本日　日曜　第二千二百三十五號
一ヶ月　二十五錢　郵送十五錢　一部二錢
廣告料　一行　四十錢　場所指定　式倍頁分
發行兼編輯人　平谷政路
發行所　福島縣平町大字二三　新いわき新聞社

縣下中等校の野球戰

火ぶたを切る明後日

明廿二日十七校の選手乘込む

二百廿名にキャウ波の合戰

縣下中等校体育聯盟主催の第三回の野球大會は愈よ明後二十三日から三日間平町に於て開催される地元平町では各球場の設備から出場する選手の歡迎に手落ちなきを備えて明二十二日午前十時三十三分平驛着及び同午後零時五十五分着の磐越東線で乘込む

福島師範　安積　福縣　會津　喜多方　保原　白河　安達　田村　石川の各中學並に會津工業　福島　若松の兩商業

常磐線上り午前十時三十五分で來平する相馬、双葉の兩中學十五校の一行を迎ひる當日磐中並びに平商業を加へて各校選手の磐中、好間、湯本三球場に於ける各三十分づゝの練習ある傍ら午後二時から平町會議事堂にキャプテン會議を開き翌二十三日午前七時二十分選手磐中グラウンドに集合同七時半（好間、湯本は午前九時）入場式に移り前年優勝の福島中學を先導にダイヤモンドを一週して整列、君が代合唱、國旗掲揚の後、聯盟理事長末原學務部長の挨拶、福中の選旗、審判長から競技に就ての注意、選手の宣誓式終つて青沼平町長の始球式により愈よ合戰の火蓋を切られる筈であるが選手のみで二百二十名に達する各校興奮の戰ひは見ものであらう

短刀で二名を斬る

野荒しの居据強盜

内郷村御台境坂下の暗やみで

昨夜三人入亂れての格闘

石城郡内郷村の小島字仲田四古物商木村廣吉方同居群馬縣碓氷郡枝鼻町三〇一前科七犯内田鶴吉(七)は昨二十日夜の九時半頃好間村大字大舘地内に於ける同村下好間字叶多吉田水好所有畑地に忍び馬鈴薯二貫目余を窃取してゐるところを折柄通行の同村大舘五七農阿部仁三郎(四八)に發見詰責されて押問答の末鶴吉は所持せる刄渡り三寸の短刀で仁三郎の右頸部に斬つけ逃走せんとしたが同人はそれに怯まず泥棒だ〳〵と連呼しながら跡を追ふ大聲を聞つけた隣家の大舘六染物業中村富次郎(五〇)が應援にかけ出し犯人を内郷村御台境字坂下磐越東線暗渠付近に追め詰め取押へんとして同人もまた鶴吉のため短刀を以て下腹部を刺されたが三人入り亂れての格闘となり負傷者等が援けを呼んでゐるのを適々平町長橋町錢湯屋から歸り足の同地坂下三居住日雇業古川廣次(三六)及び同人妻ろく(三七)が共れに氣づき應援したる廣次は三名の組打中犯人の足を捕へ辛ふじて括り上げたが負傷せる兩人は格闘のため綿の如く疲勞してゐるので現場に近い御台境農草野庄太郎(五〇)方の就寢せるを呼び起し御厩駐在所に急を告げて春川巡査により鶴吉を縛して平署に引致すると同時に重傷の中村をリヤカーで平町安齋病院に運び應急手當中であるが約一ヶ月で全治するものと診られ阿部の負傷は幸ひに輕傷であつた

性來狂暴な犯人

獄屋生活廿七年

去三年八月小管刑務所を出た

強盜だけ前科三犯の男

犯人内田鶴吉(七)は群馬縣碓氷郡枝鼻町の原籍であるが生れは東京市駒込區肴町一九で少年の折大工の弟子となつたが奸智に長けてるので師匠に見放され浪々中詐欺を働いて二十三才の明治十九年六月重禁錮一ヶ月罰金二圓に處されたのが監獄入の初め其の後娑婆の風を一年と受けず刑務所行を繰返した中には明治二十三年頃と三十七年頃に二回の強盜があり最近では去る大正四年二月強盜で懲役十八年に處され昭和三年八月小管刑務所を放免された獄屋生活二十七年の男で石城郡に流れ赤井村の高萩字山の入榛澤留次郎方に同居し大工を働いて小使にも不自由なくゐたものが突然行方不明となつたもので一と通りの小理窟も云へば文筆も一人前の由である

貧傷の両名に同情金品

應援の古川廣次には縣から表彰

前科七犯の強たか者馬鈴薯泥の傷害沙汰に應援して犯人鶴吉を取押へた古川廣次は去月下旬現住地の内郷村御台境字坂下三に來住したが親子六人暮しに廣次は日雇を稼ぎ妻ろくは赤井村煉瓦工場に働いてゐるが平署では直ちに縣刑事協會に向つて同人の表彰方を申請し尚ほ賊の爲めに斬つけられた中村富次郎、阿部仁三郎にも表彰あるものゝ如く負傷者兩名は何れも家計大して豊かでないので附近に於て見舞の金品を集めてゐると

三百圓を摑んで行方不明

安積郡丸盛村の笹川字清水上二〇旅人宿大次郎の三男今村秀三(三三)は昨二十日午後七時半頃自家から現金三百圓を拐帶行方不明となつたが石城郡好間村の上好間字推木平清水友吉方が前記大次郎妻の實家なので同家に立廻るかも知れざる旨その際の取押へ方を賢か父ら平署に願出であつた

鰹漁既に百五十萬尾

數では昨年の倍以上

コボサれるのは其爲の相場安

賣上高は五十五萬五千圓

石郡各濱に於ける本年の鰹漁は去る五月の初漁以來最近までに約百五十萬尾と云はれてゐる其の大部分の水揚げは小名濱港で去る九日の豊漁の如きは四萬三千尾の水揚高を算し八日は三万八千尾、七日は三万五千尾と稱する大量を上げ當日を前後する五日間に於て實に十五萬尾に達したが茲數日の薄漁でも少なくて七千尾から一萬三千尾の水揚げを示してゐる目下の漁場は鹽谷岬正東五、六十海里から四百海里の間で各所に濃厚な鮫付魚群を認められてゐるが餌付不良の爲め其の刺合に漁事を上げてゐない兎に角本年の鰹は數に於ては昨年に比して倍以上の漁獲と云はれてゐるが價格安の爲め一尾七百五十匁廻り平均と見る五割の平均取引として總額五十五萬五千圓に過ぎず之れが例年の相場なら七十萬圓を超えたであらうとこぼされてゐるが大漁は結局漁濱を恵むものが多く小名濱港のみに於て昨年の水揚高百二十万圓に對し本年は鰹の不漁で約十萬圓ビン長鮪漁の皆無で三萬五千圓の減收を唱ひられてゐながら鰹漁に引續き好漁事があれば百五十萬圓の總高に上るだらうと豫想されてゐる

其漁法（手）

…川魚の習性と…

石田磐中教諭

換言しますと多くの魚類は避難所の附近に生活して居ると云ふ事になります、最も突發的の襲撃を受けたり又は急激なる增水の爲め河川に變化を來たしたりして避難所が之が爲め其の特性を失ひますと格別でありますが其の外は前に述べました樣に何か事が起きると豫定の避難を行ひますから此の移動の理屈を知つて漁法の適用に注意しなければなりません、殊に川干とか網を以て行ふ漁法は此の避難性の利用に注意しなければならないのであります、

往々川を堰止めて水を少くしますと魚類が上るとか下るとか色々な說を申しますが此の避難性を研究いたしますと容易に理解することが出來るのでありまして一言にして申しますと避難所の下流に居る魚類は上ることになりますし反對に避難所の上流に居る魚類は下ることになるのであります、即ち常に避難性を主として之れに進化性逃走性などを加味しますならば殺生は充分の効果を擧げ得るのであります、

網の使用も大体この位の說明でお解りと存じますが一二の例を申しますと投網を打つには避難性を利用して豫め魚類の運動能力に應じて投げ方を加減したり鵜網を曳くには魚類の逃走性を利用すると云ふやうな方法を選ぶのであります、

× ×

茶種の第一回出荷

廿五日の共販

三千五百俵か

今年は反當收穫一石五斗以上

四千俵のカマスなくなる

石城郡產の茶種は目下收穫盛期で來る二十五日の共同販賣を控いた各當業は平農業倉庫外各出荷驛最寄倉庫に搬入中であるが本年の全收高を大体四千俵位と見たる郡農會では百斤入の叭四千個を要意し夫々配給してゐたが既に不足を見せてゐる收穫成績は百五十町歩の作付で反當平均一石五斗以上に當り此の分では五千俵に近からうと云はれてゐる唯本年の遺憾は採取遲れのものに恰度目下の打續く期節外れの梅雨模樣に差かゝつた爲め乾燥仕上げに手古摺つてゐることで之れ等乾燥不充分なものを第二回共販に繰延べて今回の出荷は三千五百俵に達するであらうと

精神病者發見

石城郡鹿島村の矢田字中田三農戸主長瀨武治(三三)は精神に異狀を呈し監置を要するため其の手續中であつた去る十六日突然行方不明となり同家では勿論部落の援助で八方捜査してゐたが何所で日を過ごしてゐたのか駐在巡査が村内で同人を發見し無事歸宅したと

刑事を詐り樂器をへん取

田村郡小野新町字中町七四當時住所不定郡司克吾(三〇)は去る十一日午後六時頃石城郡赤井村の高萩字下台の彫山秀政(三〇)方に至り小野新町警察署員だと詐り自分が以前小野新町若林三郎からヴアイオリン一個を預け金五十錢を借りた其の現品が秀政の許にあるのをそれは盜んだ品物で調べる筋があるからと騙取し去つたこと平署に發覺檢擧された

古物商記帳違反

石城郡内郷村の御厩字下宿九八古物商下遠野福太郎(四〇)は本年四月初め村内金坂皆川俊之助から石油空罐其他數ヶ所から買受けたる古物を制規の記帳を怠り平署に檢擧された

常識講座

虛無主義は哲學上では外界一切の存在を否定する說、政治上に使ふ意味では現在の社會制度は人類の生活發展を妨害するとの立脚から自由意志の命ずる生活に歸さうとする主義

農業八百

自助協同と國家の農民の任務

（十）　內務省社會局

明治の後半期に日露戰後々は事情が著しく變化した、商工業時代は漸く過ぎて確實に發展するに至り、歐州大戰を契機とする海外貿易の發展へと、急速の膨張を遂げ得たので、農業部門は取り殘されたと云ふが、發展の速度がにぶく、商工業のそれとの間に格段の較差を生ずるに至つた、此の間の國の農業政策は國民食糧の確保に向つて力が注がれたと觀てよい、我が國農業は此の三十年來新開國農業の壓迫を強く受け、綿作の如きアメリカ合衆國、印度等の綿花によりて殆んど根こそぎ排除されたことは特別の事情ではあるが、麥類その他の雜穀も合衆國やカナダ、朝鮮滿州産のものに仰へられて年々生産を減縮せざるを得ず、畜産部門に就て見ても、鷄卵は長年支那卵に、牛肉は支那や朝鮮、滿州産に壓へられて來てゐた、とゞ生糸輸出の貿易の隆盛（其の八、九割は合衆國向け）により、養蠶が獨り擴張を見たのは、正に綿作の衰滅と好き對照をなすものである、其の他の米作、蔬菜果樹栽培、若干の養畜部門は確保されたる國內市場に於て或る程度の獨占的地位を保ち得たのであるが、最近十年間の趨勢に徴すれば、內地米作は朝鮮台灣の外地米作の强い壓迫を蒙り、米價安に苦しまねばならなくなつてゐる、こう云つた趨勢は實に我が國に限らない、寧ろ舊開國農業を通じての現狀ではある、かくて商工業に對する農業の劣勢或は一國產業間に於ける不均衡を是正することが國家の重要なる任務とならざるを得ず我が國家農業政策は最近正にかゝる方向にむかつて居ると云ふことが出來ると思ふ、

傘と日傘
パラソルと
例年御定評を頂く當店特選の
優秀な新柄を豊富に取り揃へて
ツルヤ　電一四〇

店主が店員を連れて行かれる
正しい正しい正しい
酒場　喫茶　食堂
平田町　レストラン　サロン　電三六二

債券公債　両替　金融
多田井質店
平町大工町　電話五九一番

慢性の品良價も豚も牛
平町　田町　三三三屋　御の内用命は

内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

診療科目
一、齒科　一般
保存科、補綴科、繼齒架工科、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科、
一、口腔外科
一、レントゲン科
開業
中野齒科醫院
院長　日本齒科醫學士　中野憲次
日本齒科醫學士　西川誠
平町田町（松月堂向ひ）電話五〇九番

平町田町　電話五一三番
高久病院
院長　醫學士　高久忠

油問屋
關內油店
磐城平　電話長16
特約販賣
日本石油株式會社　ガソリン　モビール油
支店　郡山市驛前通　電話長八二三
支店　安城縣岡本驛前　電話長平潟七三
油槽出張所　平町四丁目　郵便局前

（磐城共濟病院）　福島縣平町電六四一
內科　院長　醫學博士　石山謙（電話六四一番）
小兒科　部長　醫學士　平賀一忠
產婦人科　副院長　醫學博士　五十嵐雄二（電話三七〇番）
外科耳鼻咽喉科　部長　醫學士　坂本眞一郎
皮膚泌尿器病科花柳病科　部長　醫學士　前澤謙正郎（電話二七二番）
X光線科療科　醫學博士　石山謙
物技術員　石山
衛生試驗所獸醫　高後利雄
藥劑師　吉本孝平
事務長　鈴木寶雄
（毎日午前八時より午後十時迄診療）
…病室完備　…入院隨意

磐城代理店
東神火災保險株式會社
東京駒產火災保險株式會社
横濱生命保險株式會社
河田鐵工場
營業所　福島縣平町七丁目　電話三二九番
河田梅吉
本社　東京市日本橋通り三丁目　二九五番
仙臺支部　仙臺市大町三丁目

煙突は朝日煙突
石綿セメント製
朝日煙突
絶對にはぜあいやけあがらない
經濟的で長持ちする
全國商店
煙うまく　強く　煙突

新時代の要求
附屬事業に等外看護婦部を特設いたし皆樣の御用向へ身元確實なる婦人を派出致します
平町南町　電三〇七
平看護婦會
會長　清野キヨ
經濟的な御便宜ご用命をお願致升
御手不足の御家庭輕い御病人の付添姙婦產婦の御家庭

磐城名產特賣所
御土產物には鄕
石城みやげ　七濱の生產品　地元產の果實
平みやげ　名菓各種
土の名產が第一
平町驛前

安價で効果的な
天然加里肥
最も適應する作物！
蔬菜　馬鈴薯　里芋　しゃうが類
◇茄果類ではトマト　茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を與へ落果を防ぎます
天然加里肥は酸性でないから
◇如何に施用しても土壤を惡變する虞は絶對にありません
一俵　參拾錢
（大量取引は特に割引致します）
製造販賣　金成國雅
平町鎌田　電話六八八番

〝貨物自動車〟の御用命に應じます